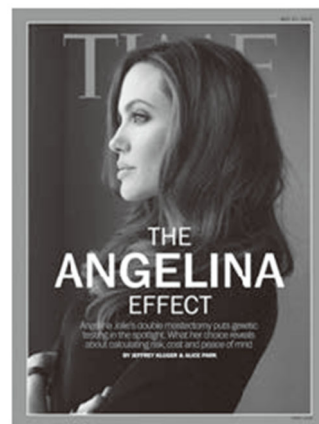


2013年5月14日のニューヨークタイムズ紙にハリウッド女優のアンジェリーナ・ジョリー氏の寄稿「私の医学的選択」が掲載され、タイム誌でも大きく報道されました。彼女は、BRCA1 という遺伝子に異常が見つかったことから、予防的に両側乳房の乳腺切除を受けたことを公表しました。その2年後には、両側の卵巣・卵管の切除手術を受けています。一般にがんの発生には、環境やホルモンなど多くの因子が関与しています。その一方で、遺伝的な要因がはっきりしている「遺伝性がん」の存在が知られ、がん全体の5～10%を占めています。婦人科での代表的な遺伝性がんとして、「遺伝性乳がん卵巣がん」や「リンチ症候群」などがあります。



2013年5月の米タイム誌は「アンジェリーナ効果」を特集。彼女の表明で、遺伝性乳がんに注目が集まり、家族の病歴に人々が関心を持つきっかけになった

◎ 遺伝性乳がん卵巣がんとは…

「遺伝性乳がん卵巣がん」の発症と関連する2種類の遺伝子が発見され、BRCA1 遺伝子・BRCA2 遺伝子と名づけられました。これらの異常によって発症するがんは、乳がんや卵巣がん全体の1割を占めています。日本人女性が生涯のうちに乳がんを発症するリスクは8%、卵巣がんは1%とされていますが、遺伝性乳がん卵巣がんの女性の場合、乳がんが41～90%、卵巣がんは8～62%と高率になります。

◎ 遺伝子検査とカウンセリングとは…

検査によって BRCA1 遺伝子・BRCA2 遺伝子に異常が認められた場合、医学的な管理がすすめられる根拠となります。その後の検査や予防、治療法としてどのような選択肢があるのか、専門医による遺伝カウンセリングでくわしい話を聞くことができます。患者さんの既往歴や家族歴などの聴き取りを詳細にし、関連するがんの発症リスクの評価を行います。それぞれの患者さんの背景や状況を十分に配慮した上で、予防的に乳腺あるいは卵巣・卵管の切除を検討する場合があります。次の条件にあてはまる場合には、産婦人科や乳腺科、遺伝カウンセリングの相談ができる病院の受診がすすめられています。

1. 患者さん本人が50歳以下で乳がんを発症した場合
2. 両側あるいは片側の複数箇所に乳がんがみられた場合
3. 家系内に50歳以下で乳がんと診断された血縁者がいた場合
4. 家系内の血縁者に卵巣がんの発症がみられた場合
5. 乳がんに加えすい臓がんや子宮体がんなどを重複して発症した場合
6. 家系内に男性の乳がんの発症がみられた場合